

花き類・観葉植物一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						うどんこ病	灰色かび病	菌核病	黒斑病	白絹病	立枯病(リゾクトニア菌)	株腐病	茎腐病	立枯病	アザミウマ類	ハダニ類	
1	ショウチノスケフロアブル		普	1.フルチアニル 2.メパニピリム	U13、9	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	ピクシオDF		普	フェンピラザミン	17	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	ボトキラー水和剤		-	パチルス ズブチリス	44	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	ポリオキシンAL水溶剤		普	ポリオキシン	19	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-
5	モンカットフロアブル40		普	フルトラニル	7	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
6	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
7	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-
8	リゾレックス粉剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

【*1】 1. アゾキシストロピン 2. メタラキシル及びメタラキシルM

花き類・観葉植物(カーネーションを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						うどんこ病
1	モレスタン水和剤		普	キノキサリン系	I:UN、F:M10	○

花き類・観葉植物(きく、トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						病灰色かび
1	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○

花き類・観葉植物(きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	うどんこ病	ハダニ類	灰色かび病
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○

花き類・観葉植物(きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						病	灰色かび
1	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7		○

花き類・観葉植物(きく、宿根かすみそう、りんどうを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アブラムシ類	うどんこ病
1	ピリカット乳剤		普	ジフルメトリム	39	○	○

花き類・観葉植物(きくを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						病うどんこ	疫病
1	オロンディスウルトラSC		普	1.オキサチアピフロリン 2.マンジプロバミド	49,40	-	○
2	カリグリーン		普	炭酸水素カリウム	NC	○	-

花き類・観葉植物(きんせんか、ホワイトレースフラワーを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						病	灰色かび病
1	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシニル	12		○

花き類・観葉植物(ストック、スターチス、チューリップ、ばら、クルクマ、きくを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	斑点病
1	ポリペリン水和剤		普	1. イミノクタジン 2. ポリオキシシ	M7、19	○	○

花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						菌核病	
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	

花き類・観葉植物(ばら、きく、チューリップ、ゆり、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	斑点病
1	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、りんどう、トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	
1	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	

花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	
1	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	

花き類・観葉植物(ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						灰色かび病	立枯病	疫病
1	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○		

花き類・観葉植物(ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネリリア、スイトピー、みやこわすれ、アンズリウム、斑入りアマドコロを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						茎腐病	苗立枯病	立枯病
1	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	○	○	○

花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						病灰色かび	立枯病	疫病
1	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	○		

花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						疫病	立枯病	疫病
1	オラクル顆粒水和剤		普	アミスプロム	21	○		

花き類・観葉植物一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																
						オオタバコガ	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	ハダニ類	アオムシ	バッタ類	ハマキムシ類	マメハモグリバエ	クロバネキノコバエ類	カタツムリ類	ナメクジ類	うどんこ病		
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアマトキサム	4A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アフアーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	エコピタ液剤		普	還元澱粉糖化物		-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
4	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	サンクリスタル乳剤		普	脂肪酸グリセリド		-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
7	ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	ダブルシューターSE	抑制	普	1.脂肪酸グリセリド 2.スピノサド	5	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ダブルフェースフロアブル		普	1.ピフルブミド 2.フェンピロキシメート	25B、21A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	チェス顆粒水和剤		普	ピメロジン	9B	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	トリガード液剤		普	シロマジン	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
14	ナメクリーン3		普	メタアルデヒド		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
15	ニツソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A、 F:39	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	ブレオフロアブル		普	ピリダリル	un	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	粘着くん液剤		普	デンブン		-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* マラソン乳剤は、商品によって花き類・観葉植物のアザミウマ類への登録の有/無が異なるので注意する。

花き類・観葉植物(カーネーション、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						二ハ類ダ
1	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	○

花き類・観葉植物(ガーベラを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アザミウマ類	ハダニ類
1	アグリメック	抑制	劇	アバメクチン	6	○	○

花き類・観葉植物(きく、ガーベラを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ムアシブ類ラ	ラコミナ類ジ
1	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○
2	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○

花き類・観葉植物(きく、きんせんかを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ムアシブ類ラ
1	ベストガード粒剤		普	ニテンピラム	4A	○

花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						ハダニ類	アミザカミンウキマイロ	ヨトウムシ類	アザミウマ類
1	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	-	-	-	○
2	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	○	○	-

花き類・観葉植物(きく、ばら、ペチュニア、レザーファンを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ムアシブ類ラ
1	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○

花き類・観葉植物(きく、りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						オオタバコガ	ハスモンヨトウ
1	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	○

花き類・観葉植物(きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						アザミウマ類	アブラムシ類	ヨトウムシ類
1	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○	○	○

花き類・観葉植物(きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハマグリバエ類	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ネコブセンチュウ	ネダニ類
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	-	○	-	-	-	-
3	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	○	○	-	-	-
4	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	○	○	-	-	-
5	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	-	-	-	○	-	-
6	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	○	-	○	-	-
7	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	○	○
8	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェスロン	15	-	○	-	-	-	-	-	-
9	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニプロール	28	○	○	-	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						類アザミウマ	類アブラムシ
1	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○

花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						類アブラムシ
1	モスピランジェット	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○

花き類・観葉植物(はばたんを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						カメムシ類	ハマキムシ類	ヨトウムシ類
1	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、プリムラ、シクラメン、ペゴニア、宿根かすみそうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アザミウマ類	ハダニ類
1	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						コナジラミ類	アブラムシ類
1	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	○	○

花き類・観葉植物(りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						アザミウマ類	オオタバコガ	類ハモグリバエ	コナジラミ類	コクバロバネキノ
1	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	○	○	○

花き類・観葉植物(施設栽培、ただし、カーネーション、ばらを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

花き類・観葉植物(宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アミザカミウキマイロ	ハモグリバエ類
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○

花き類・観葉植物(宿根かすみそう、グラジオラス、トルコギキョウ、りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメリン	3A	○

花き類・観葉植物－アスター－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名	
						さび病	苗立枯病 (リゾクトニア菌)
1	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	－
2	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	－	○

花き類・観葉植物－アスター－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名
						ウリハムシ
1	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○

花き類・観葉植物－カーネーション－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病虫害雑草名										
						さび病	べと病	灰色かび病	炭疽病	黒星病	立枯病	斑点病	うどんこ病	根腐病	苗立枯病(リゾクトニア菌)	ハダニ類
1	エムダイファー水和剤		普	マンネブ	M3	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
3	タチガレン液剤		普	ヒドロキシイソキサゾール	32	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
4	バシタック水和剤75		普	メプロニル	7	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
6	ポリオキシシAL乳剤		普	ポリオキシシ	19	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
7	モレスタン水和剤		普	キノキサリン系	I:UN F:M10	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○
8	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-

花き類・観葉植物－カーネーション－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						アブラムシ類	オオタバコガ	モモアカアブラムシ	タバコガ	ハダニ類	アザミウマ類	クロウリハムシ	ヨトウムシ
1	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
3	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	-	○	-	-	-	-	-	-
4	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	-	-	○	-	-	-	-	-
5	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	○	-	-	-	-
6	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-
7	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	-	-	-	○	-	-	-
8	シーマージェット		劇	1. BPMC 2. テブフェンピラド	1A、21A	-	-	-	-	○	-	-	-
9	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	○	○	-
10	ダニカット乳剤20		普	アミトラズ	19	-	-	-	-	○	-	-	-
11	テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-
12	テルスター水和剤	抑制	普	ビフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-
13	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
14	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	-	-	-	-	○	-	-	-
15	プリンスフロアブル		劇	フィプロニル	2B	-	○	-	-	-	○	-	-
16	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	-	-	-	-	○	-	-	○

花き類・観葉植物－カーネーション(施設栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

7-(3) カーネーション（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点病	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 予防散布を重点に、一覧表を参照し散布する。	
立枯病 萎凋病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。 高温時に発生しやすく、土壤伝染する。 未熟な堆肥は使用しない。
茎腐病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌（リゾクトニア菌）である。 高温時に発生しやすく、土壤伝染する。
根腐病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照) 生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 薬剤処理後、回復の見られない株は早期に処分する。	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌（ピシウム菌）である。 定植直後に感染すると淡い黄緑色に葉色に変化する。根は淡褐色に腐敗し生育が停滞する。症状が進むと株全体が脱水症状になり枯死する。 ピシウム菌は水で媒介するため鉢物栽培では、マット吸水や底面吸水時には注意が必要である。また培土が過湿にならないような水管理が重要である。
アザミウマ類	生育期 1. 発生初期に適用薬剤を散布する。	(ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項、防虫ネットによる防除の項を参照)

花き類・観葉植物－ガーベラ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						疫病	
1	プレビクールN液剤		普	プロパモカルブ塩酸塩	28	○	

花き類・観葉植物－ガーベラ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						アザミウマ類	トマトハモグリバエ	ハダニ類	オンシツコナジラミ幼虫	アブラムシ類	コナジラミ類	マメハモグリバエ	ミカンキイロアザミウマ	ネコブセンチュウ
1	アグリメック	抑制	劇	アバメクチン	6	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2	アプロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	-	○	-	-	-	-	-
3	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	○	○	○	-	-
4	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	-	-	○	○	-
5	カルホス乳剤		劇	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	○	-	-
6	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	○	○	○	-	-
7	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○
8	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	-	-	-	-	○	○	-

花き類・観葉植物－きく－殺虫剤

※農業の使用に際しては、必ず農業のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日：2022/11/1

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																			
					アザミウマ類	アブラムシ類	アワダチソウゲンバイ	オオタバコガ	カメムシ類	コナジラミ類	シロイチモジヨトウ	ナミハダニ	ナモグリバエ	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ	ネダニ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	ミカンキイロアザミウマ	ミナミキイロアザミウマ	ヨトウムシ類	白さび病
1	アーデント水和剤	抑制	普	アクリナトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-
2	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-
4	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
6	アディオフロアブル	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	アニキ乳剤		普	レピメクテン	6	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-
9	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクテン安息香酸塩	6	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
11	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
12	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	エスマルクDF	抑制	-	BT	11A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
15	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
16	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○
17	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
18	ガードホープ液剤		劇	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	カウンター乳剤	抑制	普	ノバルロン	15	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-
21	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
22	カルホス乳剤		劇	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
23	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
24	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	○
25	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクテン	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
26	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
27	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
28	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
29	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
30	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
31	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
32	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
33	ゼンターリ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
34	ダニカット乳剤20		普	アミトラズ	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物一きく一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日: 2022/11/1

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																																	
					アザミウマ類	アブラムシ類	アワダチソウゲンバイ	オオタバコガ	カメムシ類	コナジラミ類	シロイチモジヨトウ	ナミハダニ	ナモグリバエ	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ	ネダニ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	ハモグリバエ類	マメハモグリバエ	ミカンキイロアザミウマ	ミナミキイロアザミウマ	ヨトウムシ類	白さび病														
35	ダントツ水溶性	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
39	トクチオン細粒剤F		普	プロチオホス	1B	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ	22A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43	トレボンEW	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
44	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
46	ハチハチ乳剤	抑制	劇	トルフェンピラド	E:21A、 F:39	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
47	ビーラム粒剤		普	フルオピラム	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
48	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
49	ファインセーフフロアブル	抑制	劇	フロメトキン	34	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
51	プリンスフロアブル		劇	フィプロニル	2B	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
52	ベストガード水溶性		普	ニテンピラム	4A	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	
53	ベストガード粒剤		普	ニテンピラム	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
54	マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェヌロン	15	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
56	マトリックフロアブル	抑制	普	クロマフェノジド	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
57	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
58	モスピラン液剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
59	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物一きく(施設栽培)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日: 2022/11/1

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
					アザミウマ類	アブラムシ類	
1	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	○	○

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

7-(5) きく (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒斑病・褐斑病	生育期 例年の発病時期の20日前から7~10日おきに適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 両病害とも病原菌は同属の糸状菌(セプトリア菌)で、発病条件や症状は類似しており、区別が難しい。 黒斑病(学名 <i>Septoria chrysanthemella</i>) 褐斑病(学名 <i>Septoria obesa</i>) 発病適温は24~28℃、多湿条件下で多発する。 降雨による跳ね上がりや飛沫により感染するため、露地栽培で発生が多い。 摘芯後雨が多かったり、高温の時には発病が早くなる。
白さび病	植付前 連作を避け、ほ場環境をよくする。 親株 1. 地下(冬至)芽を用いる。 2. 切り下株を用いる場合、地上部に残っている葉は全て取り除く。 育苗期 育苗中の被害葉は見つけ次第取り除く。 生育期 予防散布を重点に、葉裏に十分散布する。 発病時は3~4日おきに、適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 10℃以下でも感染する。発病適温は20℃前後で多湿条件下で多発する。 露地栽培では6~7月、9~11月頃に発生。施設栽培では11~4月頃発生が多くなる。 苗の温湯消毒については、福島県のマニュアルを参照する。
半身萎凋病	植付前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 3. 健全苗を用いる。 4. 発生したほ場の株は親株として使用しない。	<ul style="list-style-type: none"> 品種間差があるので、発病ほ場では発生品種の作付けを避ける。
フザリウム立枯病	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 高温時に発生しやすく、土壌伝染する。
ピシウム立枯病	植付前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 6~9月(発病適温は25~35℃)に多発し、土壌伝染する。
立枯病	植付前 挿し芽床、仮植床、定植床は土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項等参照)	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌(リゾクトニア菌)である。 6~9月(発病適温は25~28℃)に多発し、土壌伝染する。
べと病	植付前 1. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 2. ほ場の排水を良好にする。 3. 窒素質肥料の多用を避ける。 生育期 1. 密植を避ける。 2. ハウス栽培では換気を十分に行う。 3. 被害葉は早期に除去する。 4. 発病しにくい品種を栽培する。	<ul style="list-style-type: none"> 発病適温は15~20℃で多湿条件下で多発する。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点細菌病	生育期 1. 予防散布を行う。 2. ハウス栽培では換気を十分に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件が続くと発病しやすく、梅雨時期など好適条件では急激に進行し下葉から枯れ上がる。
ウイルス病 (CMV等)	生育期 1. 親株は防虫ネットで被覆する。 (防虫ネットの項参照) 2. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 汁液やアブラムシ類により伝染する。 主な病原はCMVである。 感染しても大半の品種が無病徴であるが、葉に退緑斑紋、葉脈透化や軽いえそ斑紋や株の萎縮を生じる品種もある。
わい化病 (キクわい化ウイルス) (GSVd)	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 (抜き取り時に無病株の根と接触の恐れがある場合は地上部を刈り取る) 2. 汁液伝染する恐れがあるので、被害株に触れた器具や手で健全株に触れない。また、被害株に触れた器具は、資材消毒に登録のある薬剤で処理する。 (資材消毒の項参照) 3. 発生したほ場の株は親株として使用しない。	<ul style="list-style-type: none"> 摘蕾等・収穫作業による接触伝染、刃物伝染。 茎の節間が短縮し、草丈が短くなる。 葉は小型化し、色がわずかに淡くなる。 花が小型化したり、開花が早まることもある。 感染したさし穂は、発根不良となる。 県育成品種「小夏の風」は、わい化病に対し抵抗性を有する。
えそ病 (TSWV) 茎えそ病 (CSNV) えそ斑紋病 (INSV)	親株 防虫ネットで被覆するなどアザミウマ類の防除を行う。(防虫ネットの項参照) 生育期 1. 健全な苗を定植する。 2. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 3. 汁液伝染する恐れがあるので、被害株に触れた器具や手で健全株に触れない。また、被害株に触れた器具は、資材消毒に登録のある薬剤で処理する。 (資材消毒の項参照) 4. アザミウマ類の防除を行う。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照) 5. 周辺の雑草は本病の発生源となるため除去する。	<ul style="list-style-type: none"> アザミウマ類により伝染する。 TSWVは多くの植物に感染する。 TSWV、CSNV、INSVとも葉にえそ輪紋、葉脈間の黄化・えそ、茎にえそ条斑を生じる。
ハガレセンチュウ	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> 露地栽培で発生が多く、雨やかん水によって下葉から上方へ移動する。
ネグサレセンチュウ	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) (ネグサレセンチュウの防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ネグサレセンチュウが加害する作物を連作すると被害が拡大する。 被害の現れ方、定植後活着が悪く草丈が低くなるなど生育が不揃いになる。また、根が褐変する。 ネグサレセンチュウが多いほ場では、フザリウム菌やバーティシリウム菌等による土壌病害の発生を助長する。
カメムシ類 (カスミカメ類、ヒメナガカメムシ類)	生育期 1. 第1世代成虫発生期直前～発生初期にかけ適用薬剤を散布する。 2. ほ場周辺の除草を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 幼成虫が新芽、蕾などを吸汁加害する。加害されると葉に小さな穴が空いたり、ひどい場合は葉切れ症状になる。 ウスモンミドリカスミカメは、越冬卵が4～5月頃にう化して6月に第1回の成虫が発生する。秋までに3～4世代を繰り返す。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防 除 方 法	参 考 事 項
アワダチソウ ゲンバイ	生育期 1. 成・幼虫の発生期に適用薬剤を散布する。 2. 多くのキク科雑草に寄生し、発生源となるので、ほ場周辺の除草を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・成・幼虫の吸汁により葉にかすり状の脱色斑点が生じる。 ・セイトカアワダチソウやヨモギなど多くのキク科植物に寄生する。 ・大阪府の調査では、成虫の発生ピークは7月下旬と8月下旬、幼虫の発生ピークは8月上旬と下旬に認められている。
キクモンサビ ダニ	植付前 本虫が発生した親株から苗をとらない。	<ul style="list-style-type: none"> ・未展開葉から展開間もない葉の裏面に多く寄生する。 ・越冬は当時芽内で行われ、5月頃から発生が多くなる。 ・施設栽培など雨の当たらない条件下で発生しやすい。 ・加害された葉には、円形またはリング状の淡黄色斑を生じるほか、線状の斑紋や壊死斑を生じたりする（紋々病）

花き類・観葉植物ーグラジオラスー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						球 根 腐 敗 病	ポ ト リ チ ス 病	赤 斑 病
1	ホームイコート		普	1. チウラム 2. チオ ファネートメチル	M3、1	○	-	-
2	ホームイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオ ファネートメチル	M3、1	○	-	-
3	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	-	○	○

花き類・観葉植物ーグラジオラスー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						ア ザ ミ ウ マ 類
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○
2	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメリン	3A	○

7-(6) グラジオラス（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
球根腐敗病	植付前 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 生育期 発病株は、早期に抜き取り処分する。	・適用病害名は球根腐敗病であるが、グラジオラスでの球根腐敗病という病名はない。球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果がある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病（フザリウム腐敗病）である。 ・貯蔵中の多湿条件で発生しやすい。
モザイク病（CMV）	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 健全な苗を定植する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。（野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	・アブラムシ類により伝染する。 ・葉に緑色濃淡のモザイク症状を呈する。
アザミウマ類	植付前 適用薬剤で球根浸漬処理を行う。 生育期 被害茎葉は早めに刈り取り処分する。	（ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項を参照）
斑点病	生育期 被害茎葉に病原菌が残るため、被害茎葉は早めに刈り取りほ場外へ持ち出し処分する。	・降雨が多い年に多発するため注意が必要である。
赤斑病	生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 被害茎葉に病原菌が残るため、ほ場外へ持ち出し処分する。	・降雨が多い年に多発するため注意が必要である。

花き類・観葉植物－シクラメン－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						葉腐細菌病	炭疽病	軟腐病	灰色かび病	萎凋病
1	アグリマイシン－100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	-	-	-	-
2	キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	-	-
3	キノド－粒剤		普	有機銅	M1	○	-	-	-	-
4	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	○	-	-	-
5	ド－マイシン水和剤		普	1. ストレプトマイシン 2. 有機銅	25、M1	-	-	○	-	-
6	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	○	-
7	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	-	-	○

花き類・観葉植物－シクラメン(施設栽培)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						炭疽病
1	ヘルシード乳剤		普	ペフラゾエート	3	○

花き類・観葉植物－シクラメン－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						ミミカン キイロアザ	アザミウマ類	ハダニ類
1	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	-	○	○
2	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	-

7-(7) シクラメン (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
萎凋病	播種前・植替え前 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 3. 発病株の採種は避ける。 生育期 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 植替え直後には、適用薬剤で土壌灌注を行う。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌(フザリウム菌)である。 発病株の塊茎は、軟化腐敗しない。 本病の発病適温は25~30℃である。 本病は葉柄、塊茎、根の傷口から感染する。 発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
軟腐病	播種前・植替え前 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 生育期 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 枯れ葉や花蕾の除去、葉分け、植替え等の直後には適用薬剤を散布する。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。	<ul style="list-style-type: none"> 発病株の塊茎は水浸状の腐敗を生じ、悪臭を放つ。 本病の発病適温は32~35℃である。 本病は株に生じた傷口から感染する。 発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
葉腐細菌病	播種前・植替え前 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 3. 発病株の採種は避ける。 生育期 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 枯れ葉や花蕾の除去、葉分け、植替え等の直後には適用薬剤を散布し、土壌灌注も行う。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。	<ul style="list-style-type: none"> 発病株の塊茎は、軟化腐敗しない。高温期に激発した場合は軟化腐敗する事もあるが、悪臭はない。 本病の発病適温は25~33℃である。 本病は葉柄、塊茎、根の傷口から感染する。 発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
炭疽病	播種前・植替え前 1. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 2. 発病株の採種は避ける。 生育期 1. 発病葉は早期に摘み取り、土中に埋めるまたは肥料袋等に詰めて密閉し枯死させてから処分する。 2. 予防効果のある適用薬剤を定期的に散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は糸状菌(コレトリウム菌)である。 発病適温は23~28℃である。 発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。 分生子は水跳ねによって飛散するため、底面吸水法などの植物体に直接水がかからない灌水方式は伝染を抑制する。 幼芽に感染すると黒褐色の芽枯れ症状になる。 鮭肉色を呈した粘性の分生子層を形成する。
灰色かび病	生育期 1. 発病葉・花は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し結露の防止を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 空気伝染するため、被害部位や被害株をハウス外へ持ち出す。 90%以上の多湿、昼夜温の気温差があり植物が軟弱徒長している場合に発生しやすい。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農業を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
ピシウム根腐病	播種前・植替え前 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ペンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 生育期 1. 発病初期の株は適用薬剤を処理する。 2. 株全体が萎れた株は早期に処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌である。 ・生育初期に感染しても開花期以降に萎れ症状が発生する。 ・萎れ症状を呈する株の細根はほとんど腐敗・脱落する。維管束の褐変は認められない。 ・ピシウム菌は水で媒介するためマット吸水や底面吸水時には注意が必要である。また培土が過湿にならないような水管理が重要である。
えそ斑紋病 (INSV) TSWV	生育期 1. アザミウマ類の防除を行う。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項、ミカンキイロアザミウマ防除対策の項) 2. ハウスの開口部を防虫ネットで覆う。 (防虫ネットの項参照) 3. 発病株は伝染源になるので、早期に施設外に持ち出し、肥料袋等に詰めて密閉し枯死させてから処分する。 4. ハウス内および周辺の雑草を防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類により伝染する。 ・葉に輪紋症状を伴うえそが発生し、のち黄化、枯死する。 ・病徴だけでは INSV と TSWV の区別は困難である。 ・早期に感染すると被害が大きいため5、6、7月の防除が重要である。
ヨトウムシ類	(ハスモンヨトウの防除対策の項参照)	
ホコリダニ類	生育期 1. 新芽や蕾の奇形化や枯死が酷い株は、早期に施設外に持ち出し処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・シクラメンではシクラメンホコリダニやチャノホコリダニが寄生し被害を与える。 ・体長0.2~0.25mmで、初発時での肉眼による虫の発見は難しい。 ・未展開葉や蕾など暗く湿度の高い場所で繁殖する。 ・新しい葉の縁が内側に丸まる、新芽・花卉の奇形や枯死、花卉の変色等の被害症状が出る。ひどい場合には蕾が乾燥して干からびた状態となる。